2021年６月６日（日）「知恵ある者の業」

《聖書協会共同訳》コヘレトの言葉 9:17-18

17 静けさの中で聞かれる知恵ある者の言葉は、愚かな者たちの支配者が叫ぶ声にまさる。

18 知恵は武器にまさる。一つの過ちは幸せをことごとく損なう。

《新改訳 2017》伝道者の書 9:17-18

17 知恵のある者の静かなことばは、愚かな者の間での支配者の叫びよりもよく聞かれる。

18 知恵は武器にまさり、一人の罪人は多くの良いことを打ち壊す。

【序論】

本書も９章の終わりまで来ました。「知恵のことば／知恵ある行為」というテーマでもって本章は締めくくられますが、この主題は 10 章でも引き継がれます。そもそも聖書は人間全般を罪深い存在として描いていますから、その視座に立って見るならば、人間からは最も重要な「知恵」が失われていると言えるでしょう。ここで言う「知恵」とは、「生活の知恵」とか「お金を稼ぐための知恵」のような低次の事柄ではありません。人間の存在論的な問題、宗教的な意味における高次の「知恵」です。

さて、あなたがたは、過ちと罪とのために死んだ者であって（エペソ 2:1）

このパウロの人間観こそが出発点であり、人は「知恵ある者」になろうとした結果「知恵なき者」になったという創世記３章の記事に戻っていくことになります。根本的な世界観が歪んでおり、神の意思を悟ることができなくなってしまった。今日の箇所は、罪人なら誰でも陥る可能性のある「愚かさ」「過ち」というものを描いています。

【本論】

<u>本論１．細き声</u>

静けさの中で聞かれる知恵ある者の言葉は、愚かな者たちの支配者が叫ぶ声にまさる。

（9:17）

コヘレト特有の「よりまし格言」がここにも登場します。「～は～にまさる」という表現により、知恵が他の何かに比べてより優れたものであることが強調されている。ここでは「**静けさの中で聞かれる知恵ある者の言葉**」と「**愚か者たちの支配者が叫ぶ声**」が比較されています。この部分は原文の構造上やや曖昧な点があり、「静か」なものが何に

かかるかによって訳し方が変わってきます。「賢い人の言葉」にかかるのか、「その言葉を聞く人々」にかかるのか。聖書協会共同訳では後者を採用していますが、対照関係にあるのは「愚か者たちの支配者が叫ぶ声」ですから、前者（知恵ある者の言葉）にかける方がよいと思われます。新改訳 2017 はその意図をよく反映しています。

知恵のある者の静かなことばは、愚かな者の間での支配者の叫びよりもよく聞かれる。

いずれにせよ、ここで言わんとすることは、愚かな者がどんなに多くの言葉を並べ立てても、知恵ある者の一言には敵わない。それどころか、愚かな者の集団でトップに立つ者ががなり立てても、最小限の言葉で適確に物事を語る知者にはまったく太刀打ちできないということです。

この格言から思い起こすシーンがあります。それは、法廷における主イエスの姿です（マタイ 26 章等）。捕えられた主イエスを訴える偽証者が何人も現れ、偽りの証言を並べ立てましたが、主イエスはひたすら沈黙しておられました。主イエスはあらゆる不利な証言に対して弁証する権利がありましたが、自分を守るためには一切口を開かれない。ところが、大祭司が「お前は神の子、キリストであるか」と問うたとき、主イエスは自分こそが世の終わりの審判者であるという答えをなさいました。これが結果として冒瀆罪と見なされてしまうのですが、主イエスは真理のためであれば何者をも恐れずに口を開かれる方だということが分かる箇所です。それに対し、主イエスを取り巻く罪人たちの多くの言葉は聖なる神の御前で裁かれているということが暗示されてもいます。

今日のコヘレトの言葉の内容を直接主イエスの裁判に結びつけるべきであるか迷いましたが、これ以上に適切な例は聖書の中にありません。罪なきお方が世の支配者たちの前で沈黙を守り、そして最小限のことばがとてつもない意味を持つという最たる実例でしょう。人は言葉数が多いほど、その言葉がきな臭く聞こえてくる傾向があります（「天地神明に誓って！」など）。嘘に嘘を重ね、それによって自らの身を覆っている姿は、アダムとエバがイチジクの葉で見られたくない部分を隠している姿とよく重なってきます。この姿はすべての人間の本質を表していると言えるでしょう。自分の本当の姿を見られないように、私たちは何かで自分を隠して生きようとする性質があるのです。

本論２．一つの過ち

知恵は武器にまさる。一つの過ちは幸せをことごとく損なう。（9:18）

ここでは知恵と武器が対比されていますが、どうして武器がポンと出てきたのかがやや捉えにくいところがありました。武器というものは小さくても殺傷能力があり、たった一つで多くの命を奪うということを言おうとしているのでしょう。クラスター爆弾とい

うのは、戦闘機や大砲から発射されると弾体が高度 100～1000 メートルの所で破裂し、約 200 個の子爆弾を放出します。人間の悪しき知恵によって生み出された大量破壊兵器です。このイメージが、18 節後半の「**一つの過ちは幸せをことごとく損なう**」という表現を説明していることになる。実際、世の中のニュースを見ておりますと、すばらしい功績を残してきたアスリートが一つの過ちによってすべてを失ってしまうような残念な事件が起きています。異性問題や金銭的な不正は、人の人生を一瞬にして崩壊させる可能性がある。聖書における三つの実例を見ておきましょう。

①アカンの罪

ヨシュア記７章において、イスラエルがカナンの地を奪還するためにアイという町と戦ったとき、アカンという男が神のものを盗んだことによって、イスラエルが大敗するという事件が起きました。彼は物質的な欲望に駆られ、焼き捨てなくてはならなかったものの一部をくすねたのです。

> **戦利品の中に、美しいシンアルの外套が一着、銀二百シェケル、重さ五十シェケルの金の延べ棒一本があるのを見て、私はそれらが欲しくなって取りました。今それらは、私の天幕の中の地面の下に隠してあります。銀もその下にあります。**（ヨシュア 7:21）

この一人の人の罪によって、民全体に災いが及びました。

②ダビデの罪

ダビデがイスラエルの王として充実した日々を送っていた頃、彼は自らの軍事力を調べるために、嫌がるヨアブ将軍を説き伏せて人口調査をさせました（Ⅰ歴代 21 章など）。人口調査の何が悪いのかという疑問が生じる出来事ではありますが、このことが神の御心を損ね、イスラエルの民のうち７万人が疫病で死ぬという結果を招くことになります。おそらく、この人口調査に踏み切った背後には、ダビデの慢心、神ではなく自らの力の誇示があったのでしょう。これもまた一人の人の罪によって多くの人に災いが降りかかる実例の一つです。

③アダムの罪

順序は入れ替わりますが、多くの人に災いをもたらした究極の例は、やはりアダムと罪でしょう。彼が神の戒めを破ったことによって、人類全体に罪が及びました。そして、誰もが罪ある者として生まれてくるようになってしまった。今日のコヘレトの言葉に置き換えるならば、すべての人が「知恵なき者」となったのです。

本論３．第二のアダム

私は今日の箇所を学び始めたとき、９章が「**一つの過ちは幸せをことごとく損なう**」という言葉で締めくくられているところに、何の希望も見出すことのできない「暗さ」を感じました。確かに、私たちは人生の汚点と言えるような失敗をどこかでやらかしてきたでしょう。墓にまで持っていきたい失敗というものが誰にでもあるでしょう。それが、人生全体に何かしらの影を落としているかもしれません。

しかし、聖書はアダムから来る罪の闇を認めながら、それを根底から覆す事件が歴史上に起きたことを語っているのです。

> **しかし、恵みの賜物は過ちの場合とは異なります。一人の過ちによって多くの人が死ぬことになったとすれば、なおさら、神の恵みと一人の人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人に満ち溢れたのです。この賜物は、一人の犯した罪の結果とは異なります。裁きの場合は、一つの過ちであっても、罪に定められますが、恵みの場合は、多くの過ちがあっても、義と認められるからです。一人の過ちによって、その一人を通して死が支配するようになったとすれば、なおさら、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人たちは、一人の人イエス・キリストを通して、命にあって支配するでしょう。そこで、一人の過ちによってすべての人が罪に定められたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです。一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。律法が入り込んで来たのは、過ちが増し加わるためでした。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ち溢れました。こうして、罪が死によって支配したように、恵みも義によって支配し、私たちの主イエス・キリストを通して永遠の命へと導くのです。**（ローマ 5:15-21）

ここで言われていることを端的に言い直すならば、アダムによって失われたものをキリストが取り戻してくださったということです。アダムは人類の代表として罪を犯し、それによって人類全体が闇に覆われてしまいました。彼は神との契約を守ることができなかったのです。ところが、キリストは「第二のアダム」として世に来られ、「第一のアダム」が全うすることのできなかった神との契約を完全に守り通してくださいました。そして、彼の義によって多くの人が義とされる道が拓かれた。キリストを信じる人は誰でも神との正しい関係を取り戻すことができるようになったのです。

このことは「**一つの過ちは幸せをことごとく損なう**」というコヘレトの言葉をひっくり返す力を持っています。如何なる失敗を犯してきた人であったとしても、キリストにあって、その人生を一からやり直すことができるのです。

【結論】

最後に、この恵みを受けるために必要な「心」を確認しておきましょう。それは「悔い改め」です。自分の過ちを認め、神の御前にへりくだり、何の言い訳もしないことが大切です。また、人に対しても高ぶった態度を取ることなく、謝罪すべき人には謝罪をしていく必要があるでしょう。罪を犯したという事実があったとしても、それを覆う神の恵みが私たちの人生に現れてくるはずです。へりくだる人には必ず恵みが与えられる。これまでにどんな道を歩んできた人も、イエス・キリストを救い主とするならば、その人生は新しい方向へ向かって進んでいくのです。

【祈り】

贖い主なる神よ。人の一生は根本的に闇に包まれています。その闇は、神との関係が失われたところから来ているものです。その闇の中で、私たちは諸々の罪過を重ねながら生きています。人に必要なのは、ただ神から来る救いです。その道は既に聖書によって示されています。イエス・キリストが闇を光に変えてくださいました。その光に飛び込むのみです。私たちを光の子とし、永遠にあなたの栄光の内を歩ませてください。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
失われた者に光を、知恵なき者に英知を与え給う、父なる神の愛、
第一のアダムによる闇を根底から覆し給うた、第二のアダム、主イエス・キリストの恵み、
罪を教え、救いを求める心を与え給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。